

# 歴博 暮らしの植物苑だより

暮らしの植物苑観察会

第99回 6月23日(土) 13:30~15:30

「シーボルトと暮らしの植物苑」 辻 誠一郎 (東京大学大学院)

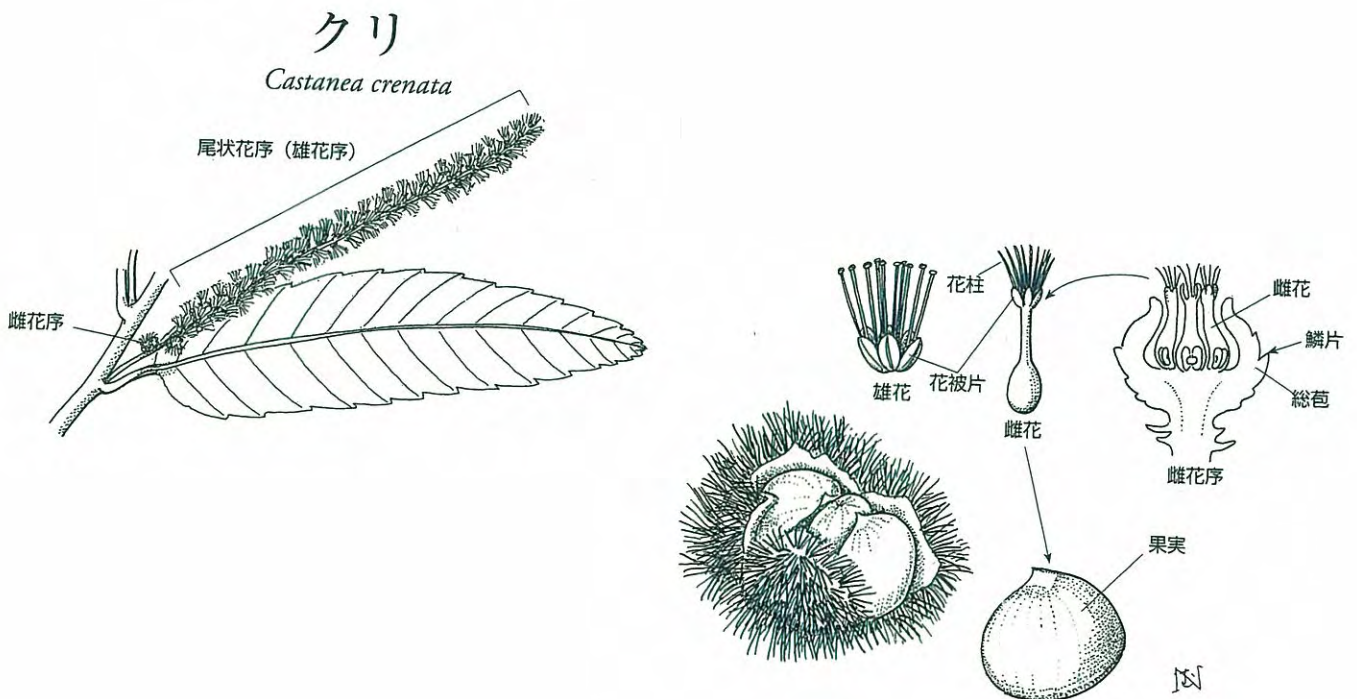
第100回 観察会100回記念 7月28日(土) 13:30~15:30

「市民のための暮らしの植物苑」 辻 誠一郎 (東京大学大学院)

暮らしの植物苑ホームページ <http://www.rekihaku.ac.jp>

## クリ

そばに行っただけで、クリは虫媒花だと気づくくらい独特の香りがあります。下の写真でもわかるように、長い尾状花序はたくさんの雄花からなります。その基部に1, 2個の雌花をつけます。雌花序は多数の微小な鱗片からなる総苞の中に3個の雌花がつきます。総苞が発達していがになります。いがの鋭いとげは鱗片の付け根からのびた小さな枝が枝分かれしてできたものです。花序・花の構造 (大場秀章・清水晶子著 絵でわかる植物の世界から引用)



クリ (ブナ科クリ属)

縄文時代から食用に利用されている落葉の果樹です。雌雄異花で、遠くからよく目立つ白い尾のようなものは、ほとんど雄花です。その尾状花序の基部に、あまり目立ちませんが雌花が咲きます。虫媒花なので、独特の強い香りがあります。



ヤブニッケイ (クスノキ科クスノキ属)  
 本州福島以南に分布する常緑高木で、西日本に多い。  
 栽培されるニッケイとは、葉の支脈が先端までい  
 かないこと、葉の裏に毛がないことから区別できる。  
 本種は葉や樹皮にはニッケイのよう芳香は少ない。



ホップ (アサ科カラハナソウ属)  
 雌花をビール醸造に利用します。雌雄異株で、雌  
 株が成熟すると各小花の基部にルプリンと呼ばれ  
 る黄色の粉ができます。雄株は栽培しません、そ  
 れは受粉するとルプリンの芳香が失われるので、  
 日本に入って来たときも雌株だけでした。



ヤマアジサイ “富士の滝”  
 (ユキノシタ科アジサイ属)  
 ヤマアジサイの園芸品種で、丸みのある花弁の  
 重咲きで、日のあたり具合で淡ピンクにも見え  
 たりもします。



アマチャ (ユキノシタ科アジサイ属)  
 ヤマアジサイの変異種のうち、植物体に甘味のある  
 ものの系統をいいます。甘茶は4月8日の灌仏  
 会にはなくてはならないものです。装飾花のがく  
 片は円形から中央が少しくぼみます。またふちが  
 重なりあっているため、がく片が1個しか見え  
 ません。



シナノキ (シナノキ科シナノキ属)  
 日本固有の落葉高木。花は香りがよく、良質の蜂  
 蜜がとれます。花序には狭長楕円形の総苞葉がつ  
 き、花には花弁、がく片、花弁状の仮雄しべがそ  
 れぞれ5個ずつあります。樹皮からはしな布をと  
 ることができます。

